

BMIPPシンチグラフィで診る 心臓の中性脂肪代謝

日時 2019年10月19日(土) 14:10-14:55

会場 武蔵野大学 有明キャンパス 3号館302(第2会場)

座長 明石嘉浩 先生 (聖マリアンナ医科大学病院 循環器内科 教授)

講演1 BMIPP洗い出し率と細胞内中性脂肪代謝・TGCV診断
宮内秀行 先生 (千葉大学 循環器内科)

講演2 冠血行再建の視点で診るTGCV
中野雄介 先生 (愛知医科大学 循環器内科)

心臓核医学検査(シンチグラフィ)における脂肪酸代謝を評価する医薬品として1993年に世界に先駆け上市された¹²³I-BMIPP製剤(カルディオダイン®注)は、心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患の非侵襲的早期診断やリスクエリアの評価ツールとして広く用いられている。2008年に中性脂肪蓄積心筋血管症(TGCV)という新規疾患概念が提唱された。TGCVの冠動脈病変は中性脂肪蓄積性のびまん性狭窄を特徴とし、重篤かつ難治性の虚血性心疾患や心不全として日常診療に潜在していると考えられている。本疾患患者の¹²³I-BMIPPの洗い出し率は高度に低下することから、その診断基準大項目に採用されており、BMIPPシンチグラフィの新たな臨床的意義が見いだされようとしている。

本セミナー前半では中性脂肪代謝とTGCV診断におけるBMIPPシンチグラフィの重要性をテーマとし、後半ではTGCV症例に対する冠血行再建の特徴や成績に焦点を当てた議論の場を提供したい。

共催 一般社団法人 中性脂肪学会 / 日本メジフィジックス株式会社

